

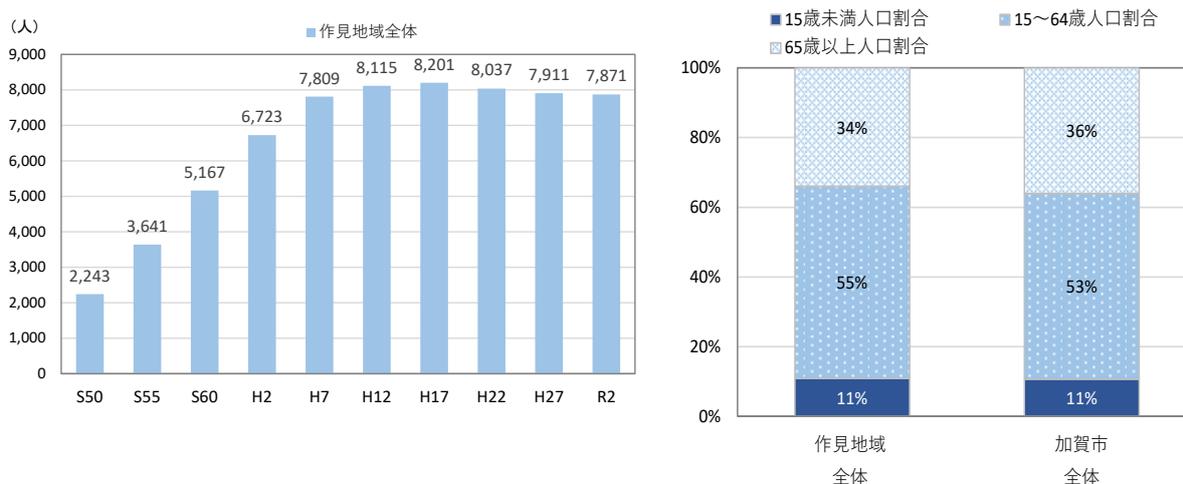
第9章 作見地域の方針

1) 作見地域の現況及び課題

(1) 人口

作見地域の人口は、平成17年のピーク時から令和2年までの15年間で330人（4%）減少しています。

年齢別の割合について、市全体と作見地域を比較すると、老年人口（65歳以上）の割合が若干低くなっています。



(2) 地域の特徴

自然

八日市川が地域を流れ、地域の北部に緩やかな丘陵地、南部には田園風景が広がっています。

歴史・文化

冨塚丸山古墳、山田光教寺跡などの歴史文化資産が残されています。

都市基盤施設

加賀温泉郷の玄関口となる加賀温泉駅を有し、一般県道加賀温泉停車場線、主要地方道山中伊切線などの幹線道路が地域内を通過しており、北陸新幹線加賀温泉駅舎や駅前広場の整備が進められています。また、本市のスポーツ・レクリエーション拠点となる加賀市中央公園などの都市公園のほか、医療センターや美術館などの公共公益施設が立地しています。

災害・防災

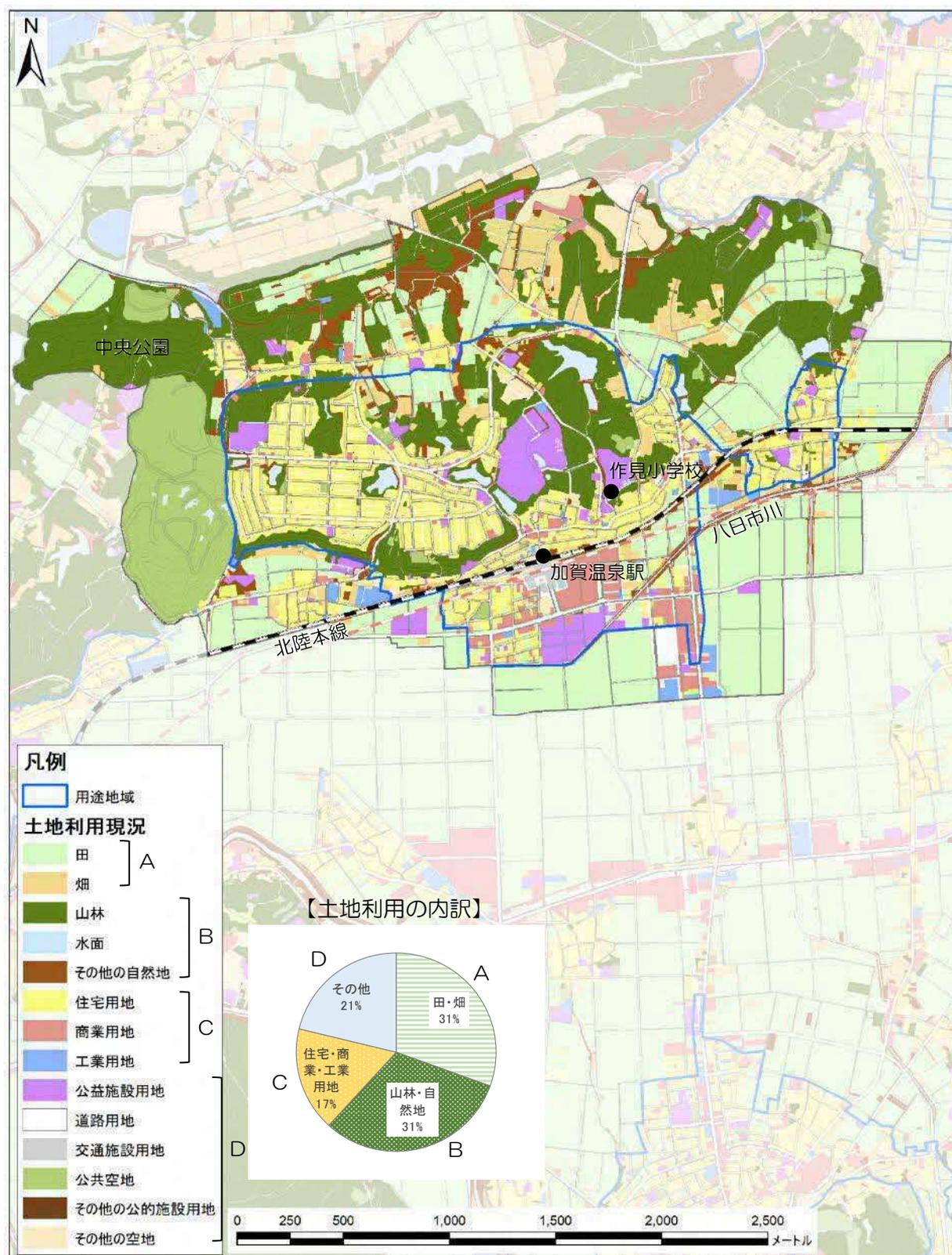
丘陵部の南斜面には土砂災害特別警戒区域がみられるほか、加賀温泉駅南部は浸水想定区域になっています。

(3) 土地利用

地域の南部に並行在来線が通り、加賀温泉駅の南側に商業施設が集積しているほか、駅北西部の丘陵部には住宅団地が立地しています。

地域の外縁部は、山林や田畑が広がっており、丘陵部にはため池が点在しています。

【作見地域の土地利用現況図】



(4) 市民アンケート調査による住民意向

買い物に便利な点が地区の魅力として挙げられており、住まい環境については、満足されているほか、開発については、空き地や空き家の活用が求められる一方、農地等における多少の宅地開発を容認する意見も挙がっています。

工場については、住環境に影響がなければ地区内での立地を容認する意見が多いほか、商業施設については、特に問題ないとの意見が多く、概ね満足されていることがうかがえます。

公園、緑、景観については、特に問題ないとの意見が多く、概ね満足されていることがうかがえるほか、道路については、雪に強い道路を求める意見、防災・防犯については、防犯対策を求める意見が多く挙がっています。

【地区の魅力】

①	買い物に便利	41%
②	災害の心配が少ない	35%
③	自然が豊か	28%

【開発について】

①	空き地・空き家を活用すべき	42%
②	農地等での多少の宅地開発はよい	40%
③	積極的に宅地開発を行うべき	15%

【住まい環境について】

①	満足している	57%
②	防犯・防災上不安	19%
③	災害が不安	17%

【工場について】

①	住環境に影響がなければ地区内に工場があっても良い	40%
②	地区内には新たな工場の進出は望まない	28%
③	住環境に影響がなければ家の近くにあって良い	24%

【商業施設の状況について】

①	特に問題ない	50%
②	徒歩圏に大型商業施設等があると良い	24%
③	生活必需品を扱う店舗が無くて不便	20%

【道路や交通施設について】

①	雪に強い道路が必要	43%
②	特に問題ない	24%
③	安全で快適な道路が必要	23%

【公園について】

①	特に問題ない	56%
②	新しい公園は必要ない	16%
③	遊具・スポーツ施設等が充実した公園が必要	14%

【緑について】

①	特に問題ない	57%
②	街路樹はこれ以上必要ない	18%
③	街路樹を減らすべき	14%

【景観について】

①	特に問題ない	53%
②	白山連峰などの自然景観・眺望を保全すべき	25%
③	まちなみと調和した道路や街路樹により景観保全すべき	18%

【防災・防犯について】

①	防犯灯・街路灯の充実	31%
②	特に問題ない	29%
③	防犯カメラの充実	23%

(5) 地域別懇談会からみる住民意向

加賀温泉駅の南北移動の改善や、中央公園の利活用を見据えた改修のほか、加賀温泉駅北口における改札口の整備が求められています。

また、旧ユートピア加賀の郷の解体または利活用検討のほか、浸水エリアやため池決壊のリスクを考慮した防災対策の推進などが求められています。

【地域別懇談会で出された意見の要旨】

区分	出された主な意見
道路・公園	<ul style="list-style-type: none"> ○加賀温泉駅の南北移動が不便 ○主要地方道山中伊切線など、街路樹等による歩道の凸凹の改善 ○東山田町集会場前道路などの歩道幅が狭い ○天日町など、一方通行の解消 ○アンダーパスの改良 ○広域農道の4車線化 ○中央公園をイベントなどで活用しやすい公園として改修 ○既存公園の適切な維持管理
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ○のりあい号の適切な情報発信 ○利用状況に応じたバス停設置箇所の見直し、車両小型化 ○加賀温泉駅北口における改札口の整備
環境・景観	<ul style="list-style-type: none"> ○旧ユートピア加賀の郷の解体または利活用検討 ○主要地方道山中伊切線や松が丘など、街路樹の適切な整備 ○住宅地周辺の樹木の適切な維持管理 ○空き家情報の公開・再生
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ○浸水エリアやため池決壊のリスクを考慮した防災対策の推進 ○松が丘北部・八幡神社前道路や作見地区会館前道路など、夜間が暗く危険 ○防犯カメラの設置
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○働く場所の確保 ○歩きたくなる環境の整備（公衆トイレの整備など） ○若者や観光客向けの施設の整備



(6) 作見地域の課題

地域が抱える課題は、全体構想をはじめ地域の現況や住民意向などを踏まえ、体系的整理して抽出します。

分類	地域の課題
土地利用	○駅周辺の商業集積や公共公益施設の立地促進 ○市の中心地としての賑わいや交流・産業の拠点の形成 ○駅北地区の適切な土地利用推進
人口	○現状の人口の維持 ○高齢化や障がい者などに対応した都市施設のユニバーサルデザイン化
都市基盤施設	○加賀温泉駅の南北移動の改善と機能拡充 ○駅南の交通量増加への対応 ○加賀市中央公園の施設の充実 ○公共交通の利便性向上 ○下水道区域の見直し ○並行在来線の維持 ○街路樹の更新などによる歩道凸凹の改善や適切な維持管理
自然	○無電柱化等による景観整備や白山をはじめとした山並みの眺望景観保全
歴史・文化	○冨塚丸山古墳や山田光教寺跡などの遺跡の保全と市内周遊観光への活用
産業	○駅南における商業機能の集積 ○若者や観光客向けの施設整備
災害・防災・防犯	○土砂災害対策の推進 ○空き家対策や防犯灯等による防犯対策 ○浸水エリアやため池決壊の防災対策の推進 ○鉄道アンダーパスや踏切などにおける安全対策

2) 作見地域の将来都市像

(1) 将来都市像

新しい価値を創造する、人が集い行き交う加賀温泉郷の玄関口

加賀温泉郷の玄関口となる加賀温泉駅周辺は、北陸新幹線駅が整備される重要な交通結節点であり、施設の整備を拡充し公共交通の拠点化を図ります。

また、本市の中心としての商業施設や文化施設、医療施設等、多様な都市機能の集積とともに、新たな賑わい・交流・文化等の核となる都市空間の形成・創出を推進します。

(2) 実現に向けた基本方針

○加賀温泉郷の玄関口としての都市機能の誘導・集積による便利で賑わいある都市空間づくり

北陸新幹線停車駅となる加賀温泉駅前広場の機能充実をはじめ、駅からのバス交通などの二次交通の充実を図り、市内の各拠点や各温泉地との連携向上を図ります。

加賀温泉駅の南側の既存市街地は、商業施設や文化施設、医療施設等の誘導・充実を図るほか、市民だけでなく来訪者にも利用される、都市機能が集積した市街地として整備を図ります。

○駅前空間における良好な景観の形成

加賀温泉駅周辺は、屋外広告物等の規制誘導に加え、集いと交流を演出する植栽デザインなどにより、加賀温泉郷の玄関口として相応しい、来訪者をもてなす魅力的な景観形成を図ります。

○地域南部における新たな都市機能の創出

地域南部（商業振興地区以南）においては、新たな価値を創造し続ける未来型のエリアとして、先端技術を活用しながら、周辺環境と調和した循環型のまちの形成を図ります。

○集落や住宅地の居住環境とコミュニティの維持

丘陵部の低層な住宅地を形成している住宅団地は、良好な居住環境を維持します。

地域北部の集落は、居住機能と活力の維持を図るとともに公共交通の確保のほか、地区のまちづくり運動や地域活動の支援などにより、集落の活性化とコミュニティの維持を図ります。

○都市基盤の整備と幹線道路沿いの沿道サービス機能の充実

地域内幹線道路の拡幅整備や鉄道アンダーパスの改良、地域の公園の充実など、都市基盤を充実し、住みやすい市街地環境を整えます。また、駅前を中心とした幹線道路沿いにおいては、沿道サービス型を中心とした商業機能の充実を図り、ドライバー及び地域住民の利便性の確保を図ります。

3) 作見地域のまちづくり方針

(1) 土地利用の方針

居住地区

丘陵部の一戸建て住宅や共同住宅を中心とした住宅団地は、閑静な住宅地として、住居以外の建物の混在を抑制し、周辺の自然環境と調和した快適な住環境の保全と充実を図ります。

職住が共存する市道C第268号線(松が丘地内)沿道では、住民の日常利便性を確保するため、小規模な店舗と共存を図り、定住促進を目指します。

加賀温泉駅北口は、新幹線駅舎の新設に合わせて自動車の転回場整備や地下連絡通路の改良など、駅の南北のアクセス性を向上し、地域住民の利便性を高めます。

沿道利活用地区

都市計画道路片山津インター山代線(加賀温泉駅東口交差点以南)の沿道は、良好な景観保全や周辺住宅地と調和した適切な土地利用に配慮しつつ、交通利便性を活かした施設の立地を誘導します。

商業振興地区

加賀温泉駅前、加賀温泉郷の玄関口に相応しい都市景観の形成のほか、商業施設や文化施設、医療施設等多様な都市機能の積極的な誘導・集積により、都市のシンボルとなる空間の形成・創出を推進します。

スマートシティ先導地区

地域南部(商業振興地区以南)は、安全・安心で便利なスマートシティを実現するため、デジタル技術等の先端技術を導入した業務・商業・観光など多様な施設を誘導し、特別用途地区や地区計画制度を活用しながら、新たな価値を創造し続ける未来型のエリアとして、山代地域のスマートシティ先導地区と一体的に周辺環境と調和した循環型まちづくりを進めます。

工業集積地区

既存の大規模な工場が立地する地区は、周辺の住宅及び自然環境に配慮しつつ、工業地としての機能充実を支援します。

田園・集落地区

農村集落では、周囲の田園や丘陵地との共存を維持し、周辺部での開発抑制を図るほか、優良農地を保全するとともに、農産物の高付加価値化や地産地消を推進し、地域の農業振興を図ります。

丘陵保全活用地区

集落の背後に広がる丘陵地は、身近な里山として環境保全を図ります。

(2) 都市基盤整備の方針

(2-1) 道路の整備方針

幹線道路

一般県道片山津山代線（(都)片山津インター山代線(富塚町～加茂町区間)）の拡幅を関係機関に働きかけるほか、都市計画道路加賀温泉駅前3号線や大規模農道は、拡幅整備を検討します。

鉄道による南北の分断要因を解消するため、並行在来線を南北に通過できるネットワークの確保・充実を図ります。

生活道路

市街地や集落における幅員の狭い道路や線形の悪い道路は、通学や防災、交通安全面から優先度を定めて、順次、拡幅や線形改良及び見通しの改善を行います。また、鉄道アンダーパスについては、豪雨による冠水対策を図ります。

自動車と自転車、歩行者の空間が混在している路線は、状況に応じた歩車空間の共有化により、それぞれの安全性を確保します。

(2-2) 公共交通の方針

加賀温泉郷の玄関口として重要な交通結節拠点となる加賀温泉駅は、南口・北口における交通広場の機能拡充や南北連絡通路などの改良により、利便性・機能性の高い交通拠点としての整備を促進します。

また、北陸新幹線の開業後、市民の足となる並行在来線の運行本数が維持されるよう、関係機関に働きかけます。

加賀温泉駅前には路線バス及び観光周遊バス（キャン・バス）、デマンド交通の公共交通結節点として、駅周辺の利用環境の充実を図ります。

バス路線のない地区においては、デマンド交通の運行により運行本数やサービス内容の改善につとめ、分かりやすい運行情報の提供や利用促進を図ります。また、地区の利用状況に応じ、停留地点、運行本数などを見直し、MaaSなどデジタル技術を活用することでサービスの質向上を図ります。

(2-3) 公園・緑地の整備方針

加賀市中央公園では、多様化する市民の運動・レクリエーション活動などへの対応のほか、老朽化した施設の整備・改修に加え、アクセス路の充実や災害時における広域的な避難拠点として防災機能を強化します。

本地域では、街区公園や近隣公園、その他の身近な広場等が整備されており、利用者ニーズの対応とユニバーサルデザイン化による利用しやすい公園の充実を図ります。

これらの公園・緑地・広場の維持管理は、地区住民等によるアドプトプログラムでの維持管理を促進し、それぞれの施設の適正管理と地区住民の愛着醸成を図ります。

(3) 環境保全・形成の方針

自然環境の保全

八日市川や、地域内に点在するため池などにおいては、生態系に配慮した水辺環境整備を推進するほか、丘陵部の森林は、動植物の生息地として保全します。

生活環境の保全・形成

丘陵部に位置する住宅地の良好な環境と景観が維持されるよう、地域住民が主体となった美化活動の推進や作業の効率化を支援します。

市民や事業者の理解と協力を得ながら、民有地における緑の保全と育成を図り、また、河川や道路の緑を軸として、住宅地や商店街などは生け垣設置や緑化により、沿道空間の緑のネットワークの形成を誘導します。

(4) 景観保全・形成の方針

自然景観

住宅地周辺の丘陵地の景観保全のほか、八日市川などの河川における景観に配慮した河岸改修や散策路の整備を推進します。

歴史・文化的、伝統的景観

冨塚丸山古墳や山田光教寺跡など歴史文化資産の活用により、良好な景観を創出します。

眺望景観

丘陵地からの白山眺望を保全するため、景観の阻害要因となる家屋等の規制・誘導を検討します。

市街地景観

加賀温泉駅前においては、屋外広告物等の規制・誘導と植栽による都市空間の演出により、加賀温泉郷の玄関口として相応しい、良好な景観の形成に努めます。

松が丘や白山台などの住宅地においては、景観に関するルールづくりを検討し、落ち着いた住宅地となる景観形成を図ります。

農村集落や里山・農地においては、屋外広告物の抑制や農地の保全により、田園の景観保全を図ります。

(5) 防災・防犯の方針

災害の未然防止

土砂災害特別警戒区域での防災対策をはじめ、八日市川や地域内に点在するため池などでの洪水対策、鉄道アンダーパスの冠水対策など、自然災害の減災を図ります。

雪害対策として、加賀温泉駅や加賀市医療センターへのアクセス道の重点的な除雪とともに、通学路や生活道路の優先的除雪など、迅速かつ効率的な除雪体制を市民と協働で構築します。

被害抑制

地震や豪雨による土砂災害などの大規模災害に備え、加賀市中央公園などの災害避難拠点や避難場所となる公園などの防災機能の強化に努めます。

市街地の建物密集地では、建物の耐震化促進のほか、生活に必要な施設の耐震化整備や市街地及び集落における消防水利施設の充実を図ります。

交通安全・防犯

本地域は鉄道により南北に分かれていることから、鉄道アンダーパス、踏切における交通の安全確保に努めます。

また、市街地における見通しの確保や自動車への注意喚起と速度抑制による交通の安全確保を進めるほか、防犯灯の設置や老朽空き家の撤去の促進などにより、安全で安心なまちづくりを推進します。

【作見地域のまちづくり方針図】

